

人柄番付は「横綱」の中大OB、玉春日関 楯山襲名披露大相撲での中大校歌に胸躍る

「今日は四国中から人が集まっているからね」。

それでこの混雑。なるほど。パーゼンセルに行ったわけではない。5月30日に両国国技館で行われた『玉春日引退・楯山襲名披露大相撲』に出かけたとき、門に入るまでの行列に並んでいる最中に冒頭のセリフを偶然耳にした。

玉春日関は、中大OBの元関脇、その引退相撲である。午前11時30分、中大OBのNHKアナウンサー、藤井康生さんの司会で、引退大相撲は始まった。初切や相撲甚句、十両取組の後はいよいよ断髪式。

その断髪式の前に、中央大学応援団による中央大学校歌と応援歌の斉唱が行われた。校歌が流れはじめる、と、榊席などに座っていた人たちが続々と立ち上がり、校歌を熱唱。校歌の大合唱に胸がふるえ、校歌歌っているものだなと感じた瞬間だった。また、中大関係者がこんなに大勢来ていたのかと驚き、中大の底力を垣

間見た気がした。

断髪式では300人を超える人たちがハサミを入れ、最後は師匠である片男波親方が大銀杏を切り落とし、長く親しんだ髷に別れをつげた。涙ぐみながら深々と礼をする玉春日関の姿に目頭が熱くなつた。

司会の藤井アナウンサーが、「人柄で番付をつけるのなら、まちがいない横綱でしょう」と言っていたように、玉春日関は真面目な力士として知られた。負けた時でも必ずインタビューに応じ、挨拶の際は必ず立ち止まり相手の目を見る。そして、いつも感謝の心を忘れない。このような人柄だからこそ、地元のアマチュアとどまらず、四国中、そして同じ中大出身者が大勢駆けつける所以なのだろう。

これから楯山親方として後進の指導にあたる玉春日関は、「日々努力、日々精進、日々感謝」という言葉を残した。まさしく相撲道

の神髄ではないだろうか。玉春日関はずっとこの三つを実践してきた。言うのは簡単だが、実践するのはと

何か挑戦を！と自ら飛び込んだ学生記者 初取材で痛感したコミュニケーション能力

この春、僕は学生記者になった。きつかけは、図書館で手にとった『Hakumon ちゅうおう』春季号に掲載された学生記者募集の広告。今年で大学2年生、何か新たな挑戦を始めたい。そんな思いに駆られていた僕は、すぐに記者になろうと決意した。

記者としての初仕事は、まさに苦難の連続だった。取材当日、僕は相手の言葉に耳を傾けメモを取るのに精一杯。話を引き出すことさえままならず、入念に下準備したことも役立てることはできなかった。実際に体験することの重要性が、身をもつて感じられた。

取材を終えると、次に待っていたのは原稿との戦いであった。筆先の進まないまま、ただ時間だけが過ぎていく。思い通りにならない

ても難しい。堂々と花道をさがっていく姿に、男の一本道を見た。(縁)

原稿を前に、何度投げ出そうとしたことか。苦心の末に完成した原稿も到底満足のいく仕上がりとはいえず、案の定、大幅な手直しが加えられた。その上、事実誤認という、大変な失態まで犯してしまっていたのである。人生初の記者活動は、僕にとって、なんともほろろ苦しいものとなった。

文章によって何かを伝えるというのは本当に難しい。手前勝手や独り善がりでは通用せず、常に読む側の視点に立って考えなければならぬ。問われるのは、コミュニケーション能力そのものなのだ。記者になり、僕はそのことを痛感した。

しかし同時に、言葉を綴る喜びや楽しさも知った。もつといい記事を書きたい。もつといい文章を書きたい。今、そんな思いが心の底からわき起こっている。初めて編集室を訪れ、学生記者へ

の想いをぶつけた時、僕は熱い志を持っていた。今もそれは変わらない。初心を忘れず、いつまでも駆け出し

のつもりで、これからも頑張っていこう。

(H)

就職活動で成長し、仲間の大切さ知る 社会人入り前に、大人への階段を上る

大学受験がついにこの前だと思っ
ていたら、もう就職活動。

「団塊の世代の引退、就職活動は売り手市場」。そんな言葉が飛び交っていたのは、いつのことだったか。気がつけば100年に一度の大不況に突入していた。就職活動も氷河期世代に次ぐほどの荒波で、極端に雇用環境が悪化する時に就職活動を迎えた。

希望業種が「新卒採用見送り」「採用人数削減」という想定外の波乱。「内定取り消し」が巷で騒がれる中、受ける前に見送ることが分かったのだから…とポジティブに受け止めるしかない。

「今年は大変でしょう」と始まる会社説明会。気ばかり張ってしまふ。しかし、どれだけ社会情勢を憎んでも現状は変わらないし、内定をもらえる人は不況も何も関係ない。精神

的に追い詰められながらも、どうか就職活動を終えた。

就職活動を通じて得たことは2つある。1つは自分の成長だ。エントリーシート、グループワーク、面接を通じ、頭で考えていることをうまくアウトプットできるようになったと思う。

成長したのは私だけではない。今までゼミで発言ができなかった友人が、先日2回連続で発言したのだ。分かりやすく、堂々と話す友人を見て驚きとともに、なんだか微笑ましい気持ちになった。

2つ目は仲間の大切さだ。大学が春休みのため友人に会うことなく個人で行うのが、就職活動の辛さを増す要因のひとつ。お互い精神的に辛い状況下、励ましのメールに涙したこともしばしばだった。良きライバルであり、良き理解者に、本当に感



謝している。

加えて、厳しい経済環境下での就職活動だったので、新たな視点で会社選びを行うことができたとも感じている。当初、希望していた業界ではなかったが、結果として内定を頂いた会社にもむしろ満足している。この

時代に就職活動を行えたからこそその結果である。

さて、来年からは社会人。しかし、まだまだ学生気分なのは事実だ。けれど大人の階段を少しは上った気がするの、きっと私だけではないはずだ。

(N)

